

2003 年度 委員会活動成果報告

(2 0 0 4 年 3 月 3 1 日 作 成)

委員会名	批評と理論小委員会	主 査 名：磯崎新
所属本委員会 (所属運営委員会)	建築歴史・意匠委員会	委員長名：陣内秀信
設 置 期 間	2000 年 4 月 ~ 2004 年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	建築の歴史的評価と理論構築を有機的に関連させ、建築研究と建築想像の接点を構築してゆくための委員会である。 これまで、連続シンポジウムを開催し、現在はそのまとめと、更なる理論構築のディスカッションを行っている。	
委員構成 (委員名(所属))	磯崎 新 (株)磯崎新アトリエ 鈴木 博之 東京大学 大学院工学系研究科建築学専攻 藤森 照信 東京大学 生産技術研究所第5部 杉本 俊多 広島大学大学院 工学研究科社会環境システム専攻 上松 佑二 東海大学建築学科教授 隈 研吾 (株)隈研吾建築都市設計事務所 中谷 礼仁 大阪市立大学 工学部建築学科 石山 修武 早稲田大学 理工学部建築学科 五十嵐 太郎 中部大学 工学部建築学科	
設置 WG		
2003 年度予算	230,000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	在京メンバーによる懇談会形式の討議を今年度は6回おこなった。 参加委員数は毎回平均4名程度であり、総計25名・回の出席であった。 在京メンバーによる会合であったので、予算の執行はなかった。
得られた成果	(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無) これまでの公開シンポジウムの成果の報告はすでに行われているが、さらに広く社会に還元するための方法を検討した。 小委員会委員の個人的活動は継続されているので、それらを総合的に一体化して、社会還元を行う手法をとるべきであるという結論を得た。 具体的には一般書の出版社からの刊行が考えられる。 また、新たな試みとして、技術と歴史に焦点を当てた研究会を開始し、これまで2回の非公開研究会を行った(講師は松村秀一東京大学大学院助教授および、佐々木睦朗名古屋大学教授(当時)である)。これらは今後本研究会の成果と有機的に一体化して社会に公表してゆく方向を考えている。
目標の達成度	(当初の活動計画と得られた成果との関係) 今年度の活動は、その内容においては将来を展望するところまで到達したが、以前からの成果を公表するにいたらなかった(一般社会への公表)点で、達成度に難点が残った。 今後の展望が開かれたことにより、次年度からの活動は再び活性化することが期待できるので、いっそうの努力を続けてゆきたい。
その他評価すべき事項	これまでの活動が大きな反響を呼んだことは、委員会として満足すべきものである。さらに一般社会への還元を求めて、その方策を考えてゆきたい。